インタビュー

女子ソフトボール日本代表監督

宇津木 麗華さん

“子どもたちに夢を、大人には元気をくれる高崎のソフトボール。”

The power of sports, the power of our citizens.

2020年の女子ソフトボールチーム日本代表を率いる宇津木麗華監督は、1988年に北京から来日し、ビックカメラ高崎（旧日立高崎）に入団。以来、高崎を中心に活動してきました。宇津木さんに高崎市とソフトボールの今とこれからについて話を聞きました。

市民が驚きワクワクする世界レベルのプレー

「高崎は、常に上のレベルを目指していける場所です」。宇津木麗華さんは、高崎のソフトボールについてこう話します。ビックカメラと太陽誘電、強豪2チームが高崎に本拠地を置き、常に良い緊張感を保ちつつ、切磋琢磨しています。

東京オリンピック直前の強化合宿にも、2チームから10名以上が強化指定選手として選出（2020年1月現在）。高崎市のレベルの高さを示しています。「日本のソフトボールは、世界で1位、2位を争います。その日本国内で一番レベルが高いのが高崎だと思います」と、宇津木さん。世界の強豪4か国が集まったJAPAN（ジャパン） CUP（カップ）や国内リーグなど、目の前で展開される世界最高峰のプレーに市民は驚き、声援を送り、元気をもらっています。

高崎からソフトボールの頂点へ

宇津木さんは全国を回り、ソフトボール教室などで小学生や中学生に指導することも多い。そこで比較しても群馬県はレベルが高いそうです。「高崎出身の選手もビックカメラと太陽誘電に何名か入団しています。高崎でソフトボールを頑張れば、世界トップレベルの選手になれる、そう希望を抱いてプレーしてもらいたいですね」と宇津木さん。「オリンピックが終わった後は、小中学生への指導を強化して、高崎のレベルをさらにアップさせるつもりです」と続けて話します。

高崎で世界選手権開催もソフトボール界をリード

高崎市は2019年6月にUTSUGI STADIUMを新しくオープン。「全面人工芝ですごくプレーしやすいですね。野球場並みの人工芝球場は日本にはほとんどありませんし。ソフトボール専用球場なので、ピッチャーズサークルも平坦で、投球しやすいです」と実際に使用した感想を話します。将来的に球場は第4球場まで整備され、世界選手権も開催できる。世界中の人が高崎を訪れ、高崎とソフトボールを知ってもらう機会になるはずです。

多くの人にソフトボールを好きになってほしい

宇津木さんはソフトボールをさらに広めるためのアイデアも考えている。「例えば、未就学児向けのソフトボール教室や、スピードガンによる球速測定体験などで、プレーヤーの裾野を広げていきたいですね」。実は群馬県内には60代以上のシニアチームも数多くあるそうで、ソフトボールは小学生からシニアまで、ずっと続けることのできるスポーツだという。高崎はソフトボールに熱狂する都市として、日本のソフトボール界をリードしていくでしょう。

※取材日／2020年1月8日
組織名・肩書は当時のものです。

宇津木 麗華／うつぎ れいか

1963年6月1日生まれ。中国・北京市出身。中国代表として活躍し、宇津木妙子さんとの出会いから88年に来日、95年日本国籍取得。現役時代は内野手で日本代表の主砲、主将として活躍し、シドニー五輪銀メダル、アテネ五輪銅メダル。2003年に日立＆ルネサス高崎（現ビックカメラ高崎）の選手兼任監督就任。04年に現役引退後は11年から15年まで代表監督を務め、12、14年の世界選手権優勝。16年11月、再び代表監督就任。群馬女子短大を聴講生として卒業。高崎市在住。「世界中の都市に行きましたが、高崎が一番好きです。30年前、中国から日本に来たときから、高崎の方はあたたかい。日立高崎時代には、同僚の家にごはんを食べに行ったり、お泊りに行ったりしていましたね」とも話してくれました。